

造幣局さいたま支局「桜のさんぽ道」見学会

浅倉英樹（4組）

普段は馴染みのない独立行政法人造幣局だが、この桜の季節になると大阪の本局の「桜の通り抜け」が話題に上る。造幣局さいたま支局は6年前の平成28年10月にさいたま市大宮区に移転してきた。移転と共に育てあげてきた桜並木が、4月5日から「桜のさんぽ道」として一般に開放中。

何という贅沢！同期の上原昇君（2組）は、お住まいから、この見事な桜並木を我が庭の如く日夜見下ろしてお過ごしとのこと。さすがにこの贅沢を近隣の仲間にも味あわせてあげようと、近くに在住のぶらり散策仲間声をかけてくれた。当日は蕨の会会長の成澤文和君（4組）、関賢治君（2組）と地元の浅倉が集まり、許容範囲の4人による「造幣局の桜鑑賞・博物館見学」となった。

4月13日（水）昼、さいたま新都心駅で待ち合わせ、まずは近くの居酒屋でランチ。初夏を思わせる陽気に合わせマンボウ解禁の象徴、生ビールを飲み干し、腹ごしらえをした。

食後、蕨の会の成澤会長が取りまとめてくれた会の今後のツアー予定表の説明が披露された。

次は、いよいよ店を出て徒歩数分の所にある「造幣局さいたま支局」へ。入口で検温・消毒・記帳後、入場口から左右をピンクのサクラソウで囲まれた「桜のさんぽ道」に入り、左右に並ぶ23種、100本に及ぶという桜並木を觀賞しつつ文字通り散歩開始。黄緑色の花が珍しい御衣黄をはじめ、枝垂桜も含む見慣れない諸々の桜がまだ見事に咲いて居た。「桜のさんぽ道」を通り抜けると博物館前に到着。博物館から連絡通路を経由すると工場に移動でき、貨幣や勲章などの製造工程の見学もできる。博物館には、大判、小判などの古銭や記念貨幣、勲章、メダルなどの展示と説明が並んでいる。ほぼ2時間半の楽しい時を過ごせた喜びの中、近いうちの再会を期して解散した。（以下写真3葉）

【写真1：造幣博物館前にて、左から成澤、浅倉、上原、関】



【写真2：造幣局の桜のさんぽ道】



【写真3：造幣局工場でコインの洗浄、研磨工程を見学】



《企画者の上原から一言》

今日は初夏を思わせるような天気でした。コロナ禍のなかでの集まりなので最小限の4名の仲間に声かけしてミニ同期会となりました。造幣局さいたま支局の桜並木は年々有名になっているようです。

博物館も含め、見物を希望する方は一報いただければ案内します。

(2022年4月13日記)